

臨床福祉専門学校

理学療法学科（夜間部）平成26年度 第一回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成26年9月30日（火） 19：30～20：00

場所：臨床福祉専門学校 3F 会議室

出席委員及び所属

下河辺 雅也（山田記念病院 技師長）
石垣 栄司（臨床福祉専門学校 理学療法学科学科長）
神田 太郎（臨床福祉専門学校 理学療法学科副学科長）
萬崎 保志（臨床福祉専門学校 事務次長）

（昼間部の教育課程編成委員会で学科長より示された取り組みのラフプラン）

- ①現在は8月に見学実習を実施しているが、これを挟む形で2種の取り組みを新たに設ける。
- ②学生のモチベーションが下がり始める5月の連休明け前後、入学早期に規模の大きい医療施設への「現場見学」を行う（取り組みA）。ここで、理学療法士のみならずリハの流れ全体を見せていただくことで、他職種との連携も把握できると良い。
- ③見学実習後に、PTなど現場の医療スタッフや患者さんに来校頂き、話を聞く機会を設ける（取り組みB）。見学実習は見ているだけで現場のPTと話す機会がほとんどないので、見学実習を経たからこそその疑問を学生がフランクな雰囲気の中で率直に聞ける場を設けることが趣旨。
- ④取り組みBは、一人の講師を招いての「講義方式」でなく、10名にひとり程度の小グループで行ってこそ効果がある。その際、PTだけでなく、他職種（臨福卒業の他職種スタッフならなおよい）、患者さんも織り交ぜることでより厚みを増すが、初年度はあまり無理をせず可能なところから始めたい。3施設程度からそれぞれ5名程度来ていただいて、2コマ程度のボリュームで。
- ⑤これら2つの取り組みは、特別講義という位置づけだと学生の出席率が落ちるので、授業コマの一環として位置付ける。

1 昼間部の教育課程編成委員会にて石垣学科長から示された取り組みのラフプラン（上記）は昼・夜間で共通するものであるため、これについて引き続き意見交換を行った。

- ・ PTが必要ならば、現場からスタッフを連れてくるレベルの協力は出来る。PTだけでなく、OTやSTもいるので協力を仰ぐことは可能。（委員）
- ・ 初年度は、今般の状況や新設の趣旨を理解頂いている下河辺先生などの協力を得て、まずはやってみるということ。普段からこまめなやり取りをしている先生を窓口らせて頂ければ、事前に学生の状況を伝えるなど情報共有がしやすい。（事務）
- ・ 過去に実施していた「合宿」をやめてしまったのは、合宿中の安全管理（生活指導含め）上の大変さから。未成年を含む場合、かなり神経を使わなければならない。（学科）
- ・ 科目の中で行う場合は、出席管理や評価について、きちんと管理が必要。最終的には科

目単位の評価になるが、部分的な評価についても明確にしておく必要がある（事務）

- ・ 取り組みのBにはPTだけでなく、他職種や患者さんも織り交ぜることでより厚みを増すが、初年度はあまり無理をせず可能なところから始めたい。3施設程度からそれぞれ5名程度来ていただいて、2コマ程度のボリュームで。（学科）
- ・ 在職の病院には他職種の臨福卒業生もいるため、そのような卒業生に協力を得るのも良いのでは。（委員）
- ・ 取り組みBにおいて、しっかりとコミュニケーションがとれるよう、人数に対して適切にPTなど医療スタッフを配置することが必要。以前やっていたときも、時間制限でローテーションする形にしており、一人だけでなく複数のPTや患者さんの話をまんべんなく聞くことが出来るよう配慮していた。今回もそうでないと効果が薄い（学科）
- ・ 来ていただくPTは、3施設程度の絞り込んだ中から複数来ていただくのも手であるが、学科で実施している模擬患者演習に来ている卒業生を中心に呼びかけても良い。いずれにしてもPTの確保はそれほど悩まない。（学科）
- ・ 今回の案が1年次生に対する「入学後早期の取り組み」として形になれば、次年度以降のPT学科の新たな独自の「教育プログラム」として、募集広報上の売りにもなる。（事務）
- ・ グループ校の日本リハビリテーション専門学校では、福祉施設の見学など、カリキュラム外の追加の見学実習などを多く実施している。（学科）

（まとめ）

今回の原案を、この委員会の意見交換を踏まえて引き続き学科会議にて検討。そして、次回の教育課程編成委員会にて中村委員にもご意見を頂いて、最終的に委員会案としてオーソライズし、27年度から実施する予定。

夜間部では昼間仕事を持っている学生も多いため、実施する日時設定する際は学生の都合に留意し、入学前の事前のアナウンスを確実にを行う。

2 次回開催

- ・ 事務局で日程調整の上、委員にご連絡。